
障害児支援基礎・実践研修 研修ガイドブック (案)

～こどもとその家族とともに歩む、あなたの成長のために～

基礎・実践研修を受講するみなさんに伝えたいこと

障害児支援は、こどもが育っていく日々に深く関わりながら、成長の節目や生活の変化を支え、ともに歩いていく、とても大切な役割を担っています。

こどもは、日々の経験等を通して大きく変わっていきます。だからこそ、どのような場面でも安心して過ごせるように、支援の質が安定していることは欠かせません。

この研修は、こども一人ひとりの育ちを支えるために、あなた自身が**支援者として育っていくプロセスを支えるための研修**です。

日々の実践の中で、迷うこと、悩むこと、困ること、嬉しいこと、様々な場面があると思います。そんなときに立ち戻ることができる基本的な考え方や、事業所内の同僚、先輩、上司、地域の仲間等とのつながり、また学び合うことができるツールがそろっています。

さらに、この研修で得た**学びや視点を共有し合うことで、事業所内のコミュニケーションがより深まっていき、互いに相談しやすく、支え合える環境づくりにもつながります。**こうした積み重ねが、こどもにとって安心できる支援や、より良い事業所づくりへと結びついていきます。

そして何より、この研修で得た学びを胸に、**私たち一人ひとりが、仲間とともに「こどもをまんなかに」置いた支援を続けていくことが大切です。**こどもの日々の成長を支え、ともに喜び合える環境をつくるために、みんなで力を合わせて取り組んでいきましょう。

「こどもまんなか」に、仲間とともに、ひとつずつ、学びと実践を積み重ねていきましょう。

研修ガイドブックの活用方法(目次)

1 はじめて本ガイドブックを手にしたとき 【導入編】

- 1-1 障害児支援の研修体系を創設することで実現したいこと
- 1-2 支援の土台となる「5つの基本姿勢」と「身につけたい要素」
- 1-3 障害児支援のための研修の全体像

2 基礎・実践研修(Ⅰ)をはじめる前に 【研修実施に向けた準備編】

- 2-1 基礎・実践研修(Ⅰ)を進める上で大切なこと(共通編)
- 2-2 基礎・実践研修(Ⅰ)を進める上で大切なこと(受講者編)
- 2-3 基礎・実践研修(Ⅰ)を進める上で大切なこと(上司・先輩職員編)

3 基礎・実践研修(Ⅰ) 受講START 【研修の具体的な進め方編】

- 3-1 学びの履歴セットの活用説明(受講者用)
- 3-2 基礎・実践研修(Ⅰ)各科目のフィードバックのポイント(先輩・上司用)

4 基礎・実践研修(Ⅱ)をはじめる前 【つぎの学びへの準備編】

- 4-1 基礎・実践研修(Ⅱ)を進める上で大切なこと(共通編)

5 基礎・実践研修(Ⅱ) 受講START 【より学びを深めるための具体的進め方編】

- 5-1 基礎・実践研修(Ⅱ)の進め方のポイント
- 5-2 日々の実践を振り返り、よりよい支援につなげる方法例
- 5-3 地域での学び合いの例



1 はじめて本ガイドブックを手にしたとき
【導入編】

本ガイドブックは、事業所において取り組む「基礎・実践研修」の進め方を中心に記載しています。

想定される読み手は・・・

研修受講者

基礎・実践研修(Ⅰ)及び(Ⅱ)を受講する職員。
障害児支援の現場に入職後～3年目程度までを想定。

※ 研修導入当初は、経験年数・職種に関わらず、全ての職員が受講対象

上司・先輩・同僚

基礎・実践研修において学びを深めるための振り返りや実践において相談や対話の相手となる仲間。

※ 研修導入当初は、基礎・実践研修の受講者でもあり、学びを深めるためのパートナーでもある。

具体的な基礎・実践研修の進め方は本ガイドブックP14

1-1 障害児支援の研修体系を創設することで実現したいこと(研修を実施する意味)

「こどもまんなか」に共通の価値を育む

「こどもまんなか」に、こどもを尊重する姿勢や、こどもの理解、家族への支援といった、障害児支援において大切にすべき共通の価値や考え方を、全国の支援者が共有し、支援者を支えるための土台として育んでいきます。

こうした共通言語が広がることで、どこに住んでいても安心して支援を受けられる社会の実現を目指します。

学び合える事業所づくりから地域へ

研修を通じて、事業所内のコミュニケーションをより深め、職員同士が相談しやすい関係をつくるのが大切です。

また、研修では、他事業所との合同研修や見学、地域交流も行います。

研修を通じて、他事業所や地域とのつながりが広がることで、相談し合える仲間の輪が大きくなり、地域全体の支援力向上につながります。

支援者の成長を支える学びの循環

支援者一人ひとりが専門性を高め、自信をもって支援に臨めるようになるとともに、日々の学びが実践の質を高め、将来のキャリア形成にも確かな積み重ねとして活かされていきます。

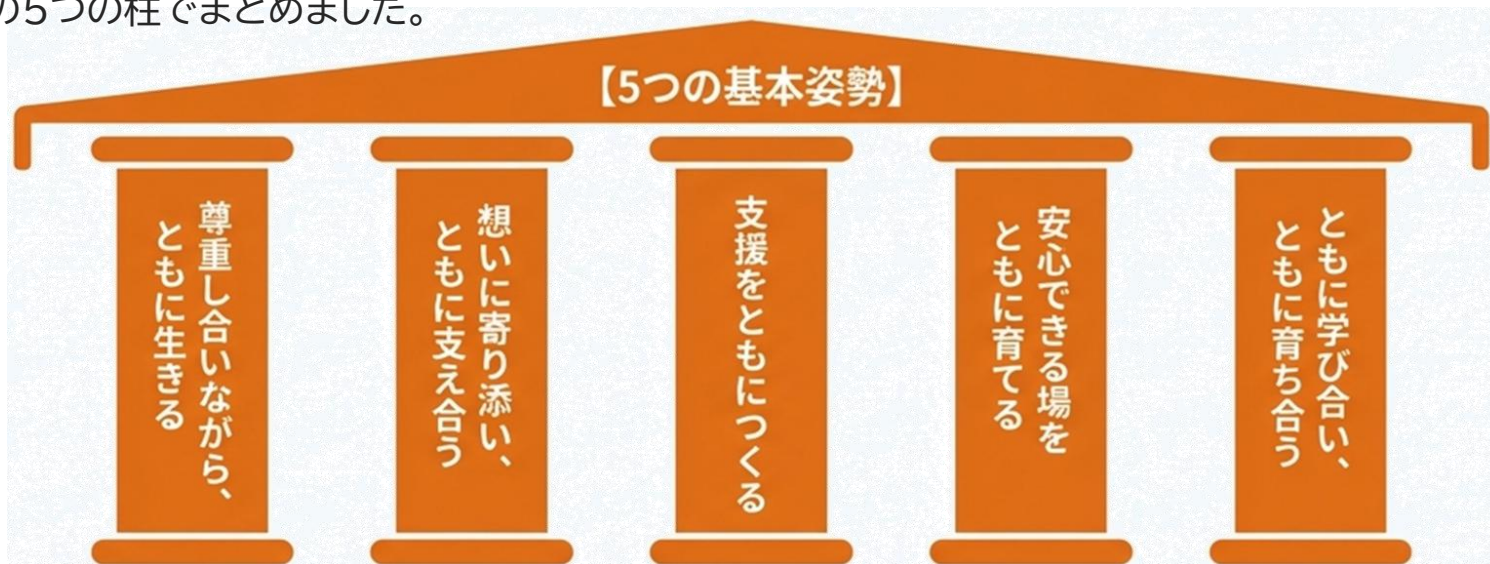
インクルージョンを推進、共生社会へ

この研修で得た障害児支援の考え方や価値を、他のこども施策にも広げていくことで、地域全体で“違いを認め合い、ともに育つ環境づくり”が進みます。こうした広がりや、将来の共生社会の実現に向けた大切な土台となります。

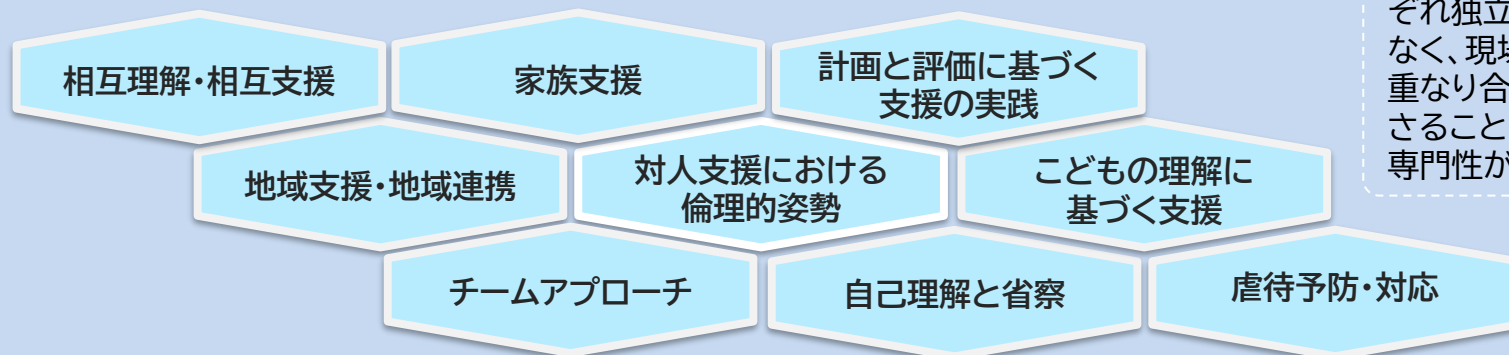
各地域において、これらが積み重ねられることで、こどもや家族が安心して支援を受けられることができる環境づくりへとつながります。

1-2 支援の土台となる「5つの基本姿勢」と「身につけたい要素」

子どもとその家族、支援者が「支援する側」と「支援される側」という関係ではなく、互いを尊重した対話的な関係であるという考え方を大切に、事業所や地域の垣根を超えて、子どもや家族をまんやかに、すべての支援者が大切にしたい基本姿勢を、以下の5つの柱でまとめました。



【身につけたい要素】



これらの要素は、それぞれ独立したものではなく、現場では互いに重なり合い、組み合わせることで、支援者の専門性が発揮されます。

本研修を通じて、支援者が専門性を十分発揮するために必要なスキルや行動特性を身につけることが期待されています。

1-3 障害児支援のための研修の全体像

本研修は、事業所等において求められる役割などを踏まえ、それぞれのステップアップの段階に応じて研修内容が構成されています。

基礎・実践研修では、こどもの支援に関わる「基礎となる視点」から学びはじめ、学びや経験を積み重ねながら、「チームや地域を支える役割」へと、ステップを踏みながら学んでいける仕組みとなっています。

本ガイドブックが対象とする範囲

基礎・実践研修(Ⅰ)

入職した直後などの支援者が
最初に受ける研修

こどもに向き合ううえで、欠かすことができない、根本的な姿勢や知識を理解し、「こどもまんなか」の支援をするための基本となる研修

※研修導入当初は、現在障害児支援に従事する全ての支援者が受講対象

基礎・実践研修(Ⅱ)

実務経験3年目程度までの支援者が
“学びを現場の実践につなげ”
学びを深める研修

基礎・実践研修(Ⅰ)での学びを基盤に、さらにこどもの理解など学びを深め、日々の実践につなげるための研修

事業所や地域の学び合いの中で研修を実施

令和9年度開始(予定)～

リーダー研修・コア人材研修

事業所や地域の中心的な役割を担う
人材を支えるための研修

事業所や地域などにおいて、後輩の育成、多職種・多機関の接続、地域の支援調整といった、より大きな視点を学ぶための研修

都道府県・指定都市が研修を開催します

令和10年度より順次開始(予定)～

研修の全体像を確認したところで、基礎・実践研修(Ⅰ)と(Ⅱ)をどの程度の期間で進めていくかの例を見てみましょう。研修とは、講義前後の取組も含めた一連のパッケージです。



障害児支援基礎・実践研修(Ⅰ)

実施時間数の目安 **合計 7科目**

例えば...

1日パターン

新人研修として、1日で7科目実施する。

週1科目パターン

週に1科目、7週かけて、実践も挟みながら実施する。

隔週パターン

2週に1科目、14週かけて、実施する。

障害児支援基礎・実践研修(Ⅱ)

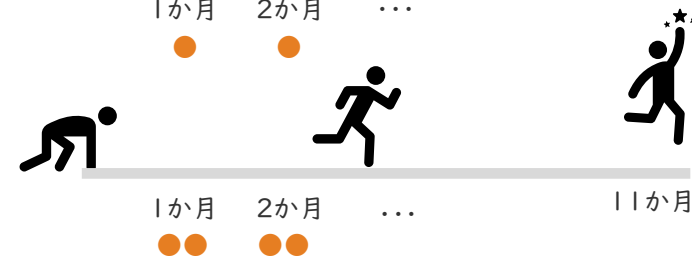
実施時間数の目安 **合計 22科目**

1か月に1科目を実施する場合



1年10か月で修了

1か月に2科目を実施する場合



11か月で修了

短期間に進めたい方、科目間の実践期間を長めに取りたい方、ご自身のペースに合った進め方をしていきましょう。基礎・実践研修(Ⅱ)は、1か月に1科目のペースで進めると、最長2年弱で終了となります。仲間と一緒に受講しながら進めるのもいいですね！





2 基礎・実践研修（Ⅰ）をはじめる前に
【研修実施に向けた準備編】

2-1. 共通編

この章では、受講者も上司や先輩も、共通して理解しておくポイントをまとめています。
まずは共通理解を持って、研修を進めていきましょう。



2-1 基礎・実践研修(Ⅰ)を進める上で大切なこと(共通編)

基礎・実践研修(Ⅰ)を受講することにより期待される人材像

障害児支援の意義や対人支援における倫理的姿勢を理解し、
こどもを主体とした支援を行う姿勢を持つことができる。

基礎・実践研修(Ⅰ)は、支援者として土台となる学びだけでなく、
事業所で効果的に研修を進めていくうえで欠かせない基本の
考え方と進め方を身につけるステップでもあります。



本ガイドブックを活用しながら、まずは“効果的に研修を進めるための基礎”を習得していきましょう。

まずは全体的な学びのサイクルを確認しましょう



学びのサイクル



常に「振り返る」ことが大切です！



この研修は、動画講義を視聴するだけではなく、
上記の「見て学ぶ」「振り返る」「やってみる」を繰り返していきます。

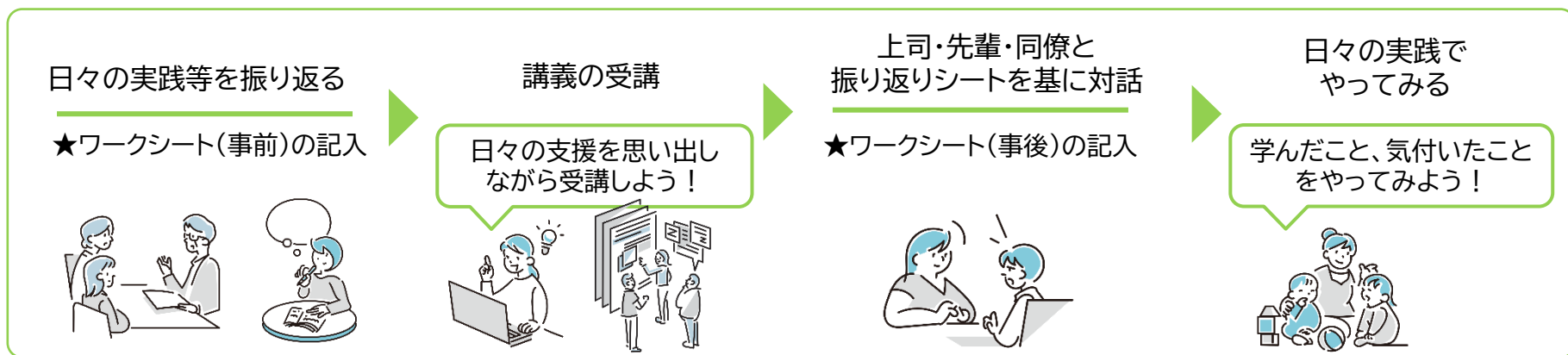
日常の支援においても大切なサイクルですね！



前項の学びのサイクルを基に、具体的な研修の進め方を見てみましょう！
上司や先輩も関わるので、要確認ですよ！



研修の進め方



このプロセスの繰り返し

動画視聴は学びのきっかけ

どのフェーズにおいても、集団で取り組むことが可能です！
特に研修導入当初は、全ての職員が受講者になりますので、
事業所全体で取り組んでも良いかと思えます！



全国共通の動画を視聴しながら、研修を進めていきますが、動画で知識を得るだけで、日々の実践が向上するものではありません。

- ✓ 自分の日々の支援を振り返る
- ✓ 受講者と上司・先輩が各科目で学んだことをきっかけに対話する
- ✓ 学びで得た気づきを踏まえて、小さな目標を決めて実践を試みる など

動画視聴+「見て学ぶ」、「振り返る」、「やってみる」の学びのサイクルの中で、各科目の学びを進めるよう設計されています。

2-2. 受講者編

ポイント

動画の視聴をきっかけに、自分の実践を振り返り見つめ直すこと、また、学びの中での気づきなどを、上司や先輩などとの対話を通じて一緒に考え、深めることが大切です。

2-2 基礎・実践研修(Ⅰ)を進める上で大切なこと(受講者編)

研修での学びを日々の実践につなげるための取組が大切

研修をきっかけに、以下の内容などを
上司や先輩職員と積極的に**対話**してみましょう。



日々の実践等を振り返る

★ワークシート(事前)の記入



講義の受講

日々の支援を思い出しながら受講しよう!



上司・先輩・同僚と
振り返りシートを基に対話

★ワークシート(事後)の記入



日々の実践で
やってみる

学んだこと、気付いたことを
やってみよう!



- 日々の支援の振り返り
- 研修テーマに関する事で、日々の支援で疑問に思っていること
- 動画を視聴して印象に残ったキーワード
- 学びの中での気づき 等

なぜ対話が大切？

一人で考えるだけでは気づけないこと、他の人の視点に触れることで、はじめて気づくこともあるでしょう。

また、対話を通じて、自分が大切にしている価値、葛藤、悩み、迷いなど、自分では言語化ができていない感情等を言語化する助けにもなるでしょう。

自分を振り返り見つめ直すことと、対話のサイクルを繰り返すことで、学びが単なる知識だけにとどまらず、「実践できる力」「判断できる力」に変わっていくことが期待されます。

学びのサイクルにしよう！

研修で得た学びや気づきを、
学びのサイクルを意識して実践することで、
学びはより確かな力になっていくはずです。



さらに、これらの取組を通じて、事業所内のコミュニケーションをより深め、
職員同士が相談しやすい関係が築かれることを期待しています。
ぜひ積極的に対話を進めていきましょう。

2-3. 上司・先輩職員編

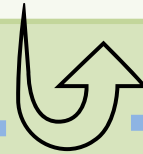
ポイント

どのような状況に置かれていても、全てのこどもは、固有の価値と尊厳があり、権利の主体として意思が尊重され、最善の利益が保障されるべき存在です。これは、本研修においても、根幹にある基本的な考え方です。

2-3 基礎・実践研修(Ⅰ)を進める上で大切なこと(上司・先輩職員編)

職員が安心して成長できる上司や先輩職員の関わり方のポイント

こどもへの支援を実践する支援者自身が、上司から尊重され、安心して学べる環境の中で学んでいくことが、結果としてこどもの尊厳を守る実践につながっていきます。そのため、上司や先輩が、受講者との対話等を行う際には、以下の姿勢と具体的行動を徹底することが大切です。



想いを丁寧に聴く・主体性を尊重する

教えるから
引き出すへ



こどもの声に耳を傾け、意思を尊重する

次のページから詳しく確認しましょう

ここからは、前項のポイントを踏まえて、職員と関わる際の大切な以下の3点について確認していきましょう！



職員の想いを丁寧に聴くなど、職員の尊厳を守る関わりをする

職員の主体性を尊重し、本人の気づきと成長を支える

行動に焦点を当てたフィードバックで成長をサポートする

職員の想いを丁寧に聴くなど、職員の尊厳を守る関わりをする

評価を急いだり、否定をすることはせず、まずは、受講した職員の想いや考え、その意図を丁寧に聴き、受け止め、理解する姿勢に徹しましょう。

これは、**こどもの声に耳を傾け、その意思を尊重する支援姿勢と同じ**です。

決して人格を否定せず、行動と選択肢を一緒に考えるという、
こどもへの支援と同じです。



具体的な関わり方例

- ✓ 「まずは、どう感じたか教えてもらえますか？」、「なぜそのように考えたのか、理由や背景を聞かせてもらえますか？」など、まずは相手の話を聞くことから始める
- ✓ 相手の話を遮らず、否定的評価を挟まず、最後まで話を聞く
- ✓ 職員の言動の背景に理解を向け、「その人なりの理由」を尊重する



職員は「大切に接してもらえている」と感じ、安心して振り返りができる

職員の主体性を尊重し、本人の気づきと成長を支える

職員本人の主体性を尊重し、本人が感じ、気づき、そこから変化していく過程を支える。
「教える」よりも「引き出す」ことに軸を置き、支援者としての自己決定と判断を尊重する。

これらは、こどもが意見を表明し、
自分の選択を尊重される支援姿勢と同じです。



具体的な関わり方例

- ✓ 「あなた自身はどう考えていますか？」、「他にどんな選択肢がありそうですか？」
「自分で気づいた点がありますか？」など、職員の考えを引き出す働きかけ
- ✓ 期待する答えに誘導しない、答えを決めつけない
- ✓ 職員本人の言葉を、再度言語化することにより、考え方を整理することをサポートする



職員が「自分で考えられる力」を伸ばし、
こどもへの関わりでも職員が主体性をもった支援ができる

行動に焦点を当てたフィードバックで成長をサポートする

まずは、職員の考え方や行動の「良い点」に焦点を当てて、肯定的に伝えていくことにより、職員のモチベーションや信頼関係の基盤をつくっていきます(ポジティブなフィードバック)。

必要な改善点を伝える場合でも、職員の人格を否定することなく、具体的な行動や判断に焦点を当てて、軌道修正をサポートしていきます。

これらは、こどもの尊厳を守る支援
(決して人格を否定せず、行動と選択肢を一緒に考える)と同じです。



具体的な関わり方例

(良い点を伝えるとき)

- ✓ 「〇〇さんの考え方は、こどもの気持ちに寄り添おうとしていた点がとてもよかったです。」
- ✓ 「〇〇という判断は、〇〇さんの強みがしっかり発揮されていると思いました。」 など

(改善点を伝えるとき)

- ✓ 「この学びを、さらに実践につなげていくためには、こうした視点も持てることさらに良くなると思います。」
- ✓ 「〇〇さんはどう感じていますか？一緒に整理してみましょう。」

職員は責められているとは感じず、
安心感を持ちながら、自らの課題や改善点に向き合える

事業所において、グループワークなど、複数の職員で取組をする場合の グラウンドルール

参加者全員で、安心して参加できる場をともに作り、互いの学びと成長を支え合うことが大切です。ここに示すグラウンドルールは、そのための共通の姿勢であり、大切にしたい価値観を具体的に表したものです。



個を尊重する

- 尊厳を守る
- 主体性を尊重する



対話を深める

- 人格ではなく行動に焦点をあてる
- 評価ではなく気づきを目的にする



場を育む

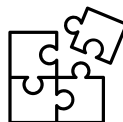
- 安全で安心できる空間をつくる
- 全員が学び合う立場として参加する

個を尊重する



尊厳を守る（まず、聴く）

- ✓ 評価・否定・攻撃・揶揄をしない
- ✓ 人の話を遮らない
- ✓ まず「聴くこと」「理解すること」を優先する
- ✓ 「事実」と「解釈」を混同しない
- ✓ 違う意見が出て「その人の背景」を尊重する



主体性を尊重する（異なる考え方を肯定）

- ✓ 「正解」「不正解」で議論しない
- ✓ 他者の考えを変えようとするしない
- ✓ 価値観・経験・視点の違いを歓迎する
- ✓ 相手に自分の考え方を押しつけない
- ✓ 「あなたはどう思う？」「他の選択肢はありそう？」など、意見を引き出す

対話を深める

2

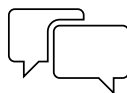
(人格否定はNG)



人格ではなく行動に焦点を当てる

- ✓ 「人格」への言及はNG(例:性格、資質、能力)
- ✓ 「行動」、「判断」、「プロセス」に焦点を当てる
- ✓ 良い点を具体的に言語化して伝える
- ✓ 課題や改善点を伝えるときには、「改善の選択肢」「別の見方」を提示する
- ✓ 誰かが責められる構造には絶対にしない

評価ではなく省察を目的に



対話を通じて気づきを深める

- ✓ 事例の良し悪しのジャッジではない、「なぜそう思ったのか」「ほかの見方はできないか？」などを深める
- ✓ 感情、悩み、迷い、ネガティブな思いも含めて語って良い
- ✓ 次の行動につながる「学び」を重視する
- ✓ 指導するのではなく、「ともに考える姿勢」を持つ

場を育む

3



全員で学び合い、支え合う立場として参加する

- ✓ 発言している人を“フォローする”視点を持つ
- ✓ 上司・先輩も「絶対的な答えを持つ者」ではない
- ✓ 参加者全員が、同じ学ぶ立場として参加する
- ✓ 相互尊重、相互成長の姿勢を持つ
- ✓ 知識や視点を共有しあうことを歓迎する

安心、守秘、相互尊重



安全で安心できる場を全員でつくる

- ✓ 共有された個人情報・体験・意見は外部に持ち出さない(守秘の原則)。
- ✓ 合意形成がされた方向性について、全ての参加者が尊重し、厳守する。
- ✓ 批判や嘲笑を許さない
- ✓ 分からないことや迷ったことを、安心して共有できる雰囲気をつくる
- ✓ 互いに感謝を言語化する
- ✓ 誰かが一方的に話すのは話NG! 話すと聴くのバランスを大切にする



3 基礎・実践研修（Ⅰ）受講START

【研修の具体的な進め方編】

3-1 学びの履歴セットの活用説明(受講者用)

「学びの履歴セット」は一連の研修過程の中で、都度記入していくものです。
研修の流れに沿って、「いつ、何をを使うか」確認していきましょう。

基礎・実践(I)は各科目で
記入するテーマが異なる

日々の実践等を振り返る

講義の受講

上司・先輩・同僚と
振り返りシートを基に対話

日々の実践で
やってみる

①受講前振り返りシート

1. 日々の支援の振り返りシート (講義前)

(1) 障害児支援の歴史や支援の意義に関する認知度 ※1つに○ まったく知らない 少しく知っている 他者に教えられるくらい知っている ほとんど知らない よく知っている
(2) 最近の支援場面の中で印象に残っている出来事 ※支援の意義や支援に関する考え方に結び付いていると感じた場面の中から (現在自身が知っている範囲の意義や考え方でOK)
(3) 歴史や支援の意義・考え方に関連して、自分が気になっている“モヤっと”や疑問 ※具体的なエピソードも書いてみましょう。 / ※これって支援の意義に合っているのかな? 正しい考え方のかな? 等

2. 講義中書き込みシート

(1) 障害のあることもや障害者を取り巻く歴史的背景
(2) 障害の捉え方の変化 (医学モデルから社会モデル、人権モデルへ)
(3) 支援の考え方の変化 (保護・隔離からインクルージョンへ)
(4) まとめ

②講義中メモ

③受講後振り返りシート

3. 講義後の振り返りシート (講義後)

所属:	氏名:
実施日: 年 月 日	参加者: ○○・△△・□□
実施形式: <input type="checkbox"/> 個別フィードバック <input type="checkbox"/> 事例検討 <input type="checkbox"/> グループワーク	<input type="checkbox"/> その他 ()
受講者のコメント (受講者記入箇所)	
◎講義での気づき、講義で印象に残ったことやキーワードを簡単に ※印象に残った用語も書いてみましょう! / ◎個別フィードバック等で相談・共有した い内容もOK!	
先輩・上司からの助言・視点 (フィードバック者記入箇所)	
記入者氏名:	
◎フィードバックコメント	

④振り返り(フィードバック)後記入シート

振り返り後記入シート

受講者総括 (受講者記入欄)

(1) 講義動画視聴・フィードバックを通して気付いたことや学び、今後の支援で活かしたい事 (最大3つまで)
1.
2.
3.
(2) 明日からの実践でやってみたいこと (小さな一歩) を一つ書いてみましょう!

1. 日々の支援の振り返り

まずは、受講する科目の「ねらい」と「学びのポイント」から、関連しそうな出来事や気になっていることを書き出してみましょ！

受講してみたら「思っていたのと違った！」となっても大丈夫です。今の感覚で書いてみましょう！



講義のテーマに関して、最近(または過去)の支援場面の中で、印象に残っている出来事について書き出してみましょ。日々の自分の支援を振り返り見つめ直すことにつながる大切なワークですので、ご自身の視点、言葉で書き出してみてください。

02. 歴史の変遷から学ぶ障害児支援の意義	
視聴状況： <input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 再視聴	日付： 年 月 日
【ねらい】 障害のある子どもや障害者を取り巻く歴史・背景、また、障害の捉え方、支援の考え方の変化やインクルージョンの推進など、障害児支援等の歴史の変遷から、障害児支援の意義を理解する。	
【学びのポイント】	
<input checked="" type="checkbox"/> 歴史の流れを踏まえた、障害児支援の意義 <input checked="" type="checkbox"/> 歴史の流れを踏まえた、現在の施策や考え方の理解	

1. 日々の支援の振り返りシート（講義前）

(1) 障害児支援の歴史や支援の意義に関する認知度 ※1つに○

まったく知らない	少し知っている	他者に教えられるくらい知っている
ほとんど知らない	よく知っている	

(2) 最近の支援場面の中で印象に残っている出来事
 ※支援の意義や支援に関する考え方に結び付いていると感じた場面
 ※あなたが考える支援の意義 等
 (現在自身が知っている範囲の意義や考え方でOK)

今は「できる・できない」ではなくて、その子らしく生きていけるようにと先輩から聞いている。

なので、その子のやりたいことを聴きながら関わっている。

(3) 歴史や支援の意義・考え方に関連して、自分が気になっている“モヤっと”や疑問
 ※具体的なエピソードも書いてみましょう。
 ※これって支援の意義に合っているのかな？正しい考え方なのかな？等

何がインクルージョンなのかよくわからない。

近所の学校の学園祭に子どもたちと行ったけれど、うちの子どもたちは居心地が悪そうだった。

ご自身がそれぞれの科目において、現時点でどの程度理解をしているのか、各科目の受講前に考えて、該当する箇所に○をつけてみましょう。

講義のテーマに関して、いまの自分が気になっていることや疑問に感じていることを書き出してみましょ。正解があるわけではありません。日々の自分の支援を振り返り見つめ直すことにつながる大切なワークですので、ご自身の視点、言葉で書き出してみてください。具体的なエピソードを書き出せるとなお良いです。

2. 講義中メモ

講義中のメモは、この書式を使っても、研修教材を印刷して、そこに記入しても、どちらでもOKです。
振り返りやすい方法でメモをしましょう！



講義中のメモとして
ご活用ください。

2. 講義中メモ
(1) 障害のある子どもや障害者を取り巻く歴史的背景
(2) 障害の捉え方の変化（医学モデルから社会モデル、人権モデルへ）
(3) 支援の考え方の変化（保護・隔離からインクルージョンへ）
(4) まとめ

3. 講義後の振り返り

3. 講義後の振り返りシート（講義後）	
所属：	氏名：
実施日： 年 月 日	参加者：〇〇・△△・□□
実施形式： <input type="checkbox"/> 個別フィードバック <input type="checkbox"/> 事例検討 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他（ ）	
受講者のコメント（受講者記入箇所）	
<p>◎講義での気づき、講義で印象に残ったことやキーワードを簡潔に ※印象に残った理由も書いてみましょう！ ※個別フィードバック等で相談・共有したい内容もOK！</p> <p>「我々のことを、我々抜きで勝手に決めるな」という 当事者主体の言葉がとても胸に刺さりました。</p> <p>大人の基準で「この子にはこれが良いだろう」と勝手に 決めて、考えてしまっていたかもしれないです。</p>	
先輩・上司からの助言・視点（フィードバック者記入箇所）	
記入者氏名：	
◎フィードバックコメント	
<p>素直な気づきですね！「良かれと思って先回りしてしまう」と いうところから「本人はどうしたいのか？」に立ち返れたこと が素晴らしいですね。</p> <p>いわゆる人権モデルについても今後深めていきましょう。</p>	

動画を視聴する中での学びや気づき、印象に残った部分やキーワードを書き出してみましょう。動画を視聴した際に、一度自分の考え方などを整理するタイミングです。これから、先輩や上司等との対話をする上での材料になるものです。

- 受講科目の学びのポイントや科目で示している内容から外れていないか。
- 良い気付きには、積極的にコメントしましょう
- 実際の支援とのギャップ等悩みが出た際には寄り添いながら、一緒に考えてみましょう。
- 気づきが出なかった先には、対話の際に質問しながら引き出してみましょう。

次項から示している、各科目のフィードバック時のポイントも参考にしてください。

4. フィードバック後振り返り

4. 振り返り対話後シート（対話後）

(1) 講義動画視聴・フィードバックを通して気付いたことや学び、今後の支援で活かしたい事（最大3つまで）

1. 障害は本人の特性ではなく、環境との「相互作用」の結果であるというICFの視点を持ち、環境の工夫を探すこと
2. こどもを「守る」だけでなく、本人の意思や「やりたい」という気持ちを尊重すること
3. 目の前のこどもだけでなく、ご家族の想いに寄り添い、孤立させないサポートも私たちの重要な役割であること

(2) 明日からの実践でやってみたいこと（小さな一歩）を一つ書いてみましょう！

支援に入る前に一呼吸おいて、まずはこども自身に「どうしたい？」「どれを選ぶ？」と意思を確認する声かけをします。

フィードバック(振り返り対話)を踏まえて、気付いたこと等を、簡潔に書いてみましょう。

実践の中でどのようなことをやってみたいか言葉にしてみましょう。

5. 実践後振り返り

5. 実践後シート

◎実践してみたことを振り返りてみましょう！

(1) こどもに対する見立ての変化、自分自身の变化、気付いたことなど

実際に支援をしてみて、こどもの意図を聴きながら、一緒に次の行動を考えられるようになった気がします。

(2) 続けたいこと、少し見直したいこと、次の一歩

こどもの気持ちを聴きながら関わるのは、今後も続けたい。言葉がない子の気持ちをもっと汲み取れるようになりたい

3-2 基礎・実践研修(Ⅰ)各科目のフィードバックのポイント(先輩・上司用)

基礎・実践研修Ⅰ-(2)「歴史的変遷から学ぶ障害児支援の意義」

【過去の歴史と本人主体の支援】

- ✓ これまでの歴史の歩みや積み重ねの中で得られた共有を踏まえ、現在の福祉が成り立っていることを理解し、同様の問題等を生じさせないためにも、これまでの歴史の変遷を踏まえて「こども本人を主体とした人権に配慮した支援」を行う必要があることを共有

【人権モデルと権利を守る実践】

- ✓ まず大切なのは本人の人権であるという「いわゆる人権モデル」に基づき、こどもの基本的な権利を守る支援を実践することを共有

【インクルージョンと自己実現】

- ✓ 障害の有無に関わらず当たり前で生活できることや、誰もがともに暮らす「インクルージョン」を前提とし、こどもの自己実現を支えていくことを共有

【家族の負担軽減と地域連携】

- ✓ こども本人だけでなく、家族の負担を軽くして地域で安心して子育てできる環境を整えることや、地域共生社会の実現に向けて他の機関と連携していくことも重要であることを共有

基礎・実践研修Ⅰ-(3)「こども・障害のあるこどもの権利」

【こどもは「権利を行使する主体」】

- ✓ 権利について正しく理解し、こどもを単なる保護の対象ではなく「自ら権利を行使する主体」として捉えることを共有

【こどもの視点と最善の利益の優先】

- ✓ 常にこどもの視点に立ち、こどもの意見を尊重することや、こどもにとって最も良いこと(最善の利益)を最優先に考えて支援することを共有 ※個人の尊厳・価値として、支援者も保護者もこどもも対等であるという観点が必要

【エンパワメント(力を引き出す・認める・力を渡す→力を取り戻す・力を発揮できる・自分に力を感じる)の重視】

- ✓ 「支援してあげる」という発想や、「できないこと」ばかりに目を向けるのではなく、こどもが自分の力を感じ、自信を持ち、本来持っている力を発揮できる「エンパワメント」を大切にすることを共有

【理念に基づくウェルビーイング(幸せな状態)の実現】

- ✓ こども施策の基本理念にのっとり、こども自身が身体的・精神的・社会的に幸せな状態を実現していけるよう、こどもや家族に関わっていく視点を持つことを共有
- ✓ あくまで、こども自身が「今この瞬間を自分らしく生きている」という実感が持てているかどうかの観点を共有

【アセスメントと「こどもの思い・願い」の尊重】

- ✓ 「アセスメント」で一人ひとりの障害や特性によるニーズをしっかりと把握することとあわせて、こども自身の「思いや願い」を何よりも大切にし、配慮して支援することが重要であることを共有
- ✓ また、障害や5領域がそのこどもの全てではないこと、こどもは常に変化していくため、アセスメントは1回行ったら終わりではないことを共有
- ✓ こども自身の「思いや願い」は、支援者の目線で汲み取ってあげるのではなく、共感し、伴走し、生活を共有することにより、こどもの背景や文脈を理解することで汲み取ることができるようになる点を共有

【個人の安全意識と組織的なチーム対応】

- ✓ 一人ひとりが安全意識を高めるだけでなく、複数人での役割分担や、職員同士でスムーズに情報共有する円滑なコミュニケーションなど、組織として対応できる体制づくりが重要であることを共有

【特性や場面に応じた日頃の備え】

- ✓ こどもの障害特性や活動する場面ごとに安全管理や安全確保の方法を検討し、そのために日頃から知識や技術を身につけ、事業所内でよく話し合うことが求められることを共有

【虐待の絶対禁止と早期発見・通報の義務】

- ✓ 障害の有無や大人子どもに関わらず、誰であっても虐待は絶対に許されないこと、そして「虐待かもしれない」と疑いを持った場合は、通報する義務があることを共有

【通報が、関わる全ての人を救う】

- ✓ 通報することは、利用者だけでなく、職員、施設、法人の全てを守り救う行動であることを共有

【「こどもの権利を守る砦」としての組織的な取り組み】

- ✓ 一人ひとりが「こどもの権利を守る砦」であると自覚し、事業所として組織的・計画的に(PDCAを回し続けながら)虐待防止に取り組むことが使命であり責務であることを共有

【予防と環境整備の重要性】

- ✓ 職場環境において、一人ひとりが追い詰められたり、孤立したりしないよう「喜びや苦しさの両面を分かち合える職場環境作り」が予防や未然の防止に重要である点を共有

【支援提供における計画作成の意味】

- ✓ 「計画を作成すること＝書類を作成する業務」ではなく、「こどもの願いを実現すること」など、こどもの未来を豊かにする設計図であること、そのために子どもや保護者の参加、声を聴くことが重要であることを共有

【PDCAで支援を回すことの重要性】

- ✓ PDCAを回すことが目的ではなく、よりよい支援を実現するための仕組みであることを共有

【支援記録の重要性】

- ✓ ただの事務作業ではなく、支援の継続性を担保することや、より良い支援提供に向けた材料などとして、記録が重要な意味があり、支援記録を作成することも、支援の一部であることを共有
- ✓ こどもの思いや願いを汲み取る際、そして最善の利益を考える際にも、日々の支援記録が重要な手がかりになることが多いことを共有

【関係者との情報共有・日々のコミュニケーションの重要性】

- ✓ 支援者同士の情報共有がずれると、こどもが混乱したり、不要な負担を生じさせることもあるなど、支援はチームで行うものであることを共有



4 基礎・実践研修（Ⅱ）をはじめる前
【つぎの学びへの準備編】

4-1 基礎・実践研修(Ⅱ)を進める上で大切なこと(共通編)

基礎・実践研修(Ⅱ)を受講することにより期待される人材像

障害児支援の意義や対人支援における倫理的姿勢を理解し、
こどもを主体とした支援を行う姿勢を持つことができる。

こどものライフステージを通じた発達と障害特性、発達の多様性を踏まえた
アセスメントの基本を理解し、「ひとりのこども」として、
個々のニーズに応じた支援を行うことができる。

こどもを中心に支援を進めるうえで、
家族支援、地域連携の重要性を理解する。

基礎・実践研修(Ⅱ)は、(Ⅰ)で身につけた基本的な考え方や進め方の基礎を土台にして、
事業所の状況に合わせて創意工夫し、より効果的な研修へ発展させていく段階です。



基礎・実践研修(Ⅱ)の考え方



振り返りにおける対話は引き続き主軸となります。
その他グループワークやロールプレイ等多様な方法を用いて、
学びを実践力につなげていきましょう！





5 基礎・実践研修（Ⅱ） 受講START

【より学びを深めるための具体的進め方編】

5-1 基礎・実践研修(Ⅱ)の進め方のポイント

それでは、基礎・実践研修(Ⅱ)を始めていきましょう！



POINT

基礎・実践研修(Ⅱ)はより実践的な内容になってきます。
日々の実践を振り返りながら、組織として支援の質を向上できるよう、
グループワークや地域での学び合いも取り入れていきましょう！

- どの科目から取り組んでもOK！
- 振り返りシートは全科目共通！
- 対話は欠かさずに！

基礎・実践研修(Ⅱ)以降の共通の振り返りシートを確認しましょう！



講義前振り返りシート		
障害児支援基礎・実践研修(Ⅱ)		
科目名: ●●●●●●●●●●		
所属: ●●●●●●	氏名: ●●●●	
視聴状況: <input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 再視聴	日付: 年 月 日	
I. 日々の支援の振り返りシート(講義前)		
(1) テーマ(科目名)に関する認知度 ※1つに○		
まったく知らない	少し知っている	他者に教えられるくらい知っている
ほとんど知らない	よく知っている	
(2) 最近の支援場面の中で印象に残っている出来事 (現在自身が知っている範囲の考え方でOK)		
(3) 今回の講義テーマに関連して、いま自分が気になっている“モヤっと”や疑問 ※具体的なエピソードも書いてみましょう。		

講義前振り返りシートは、
以下の3点で構成されています。

- ✓ 科目名に対する認知度
- ✓ 最近の支援場面の中で印象に残っている出来事
- ✓ 講義テーマに関連して、いま自分が気になっているモヤっとや疑問

受講後振り返りシートや、フィードバック後記入シートは、
基礎・実践研修(Ⅰ)と同様です！



5-2 日々の実践を振り返り、よりよい支援につなげる方法例



ここでは、以下の具体的な
振り返り方法例について見てみましょう！



可視化による事例の振り返り







事例検討

可視化による事例の振り返り
って何だろう？





まずは共通したルールから確認しましょう！

-  振り返りや事例検討は、支援者が前向きに取り組めるようにするために行う
-  相談した職員や事例提供者、他の参加者の考えを否定せず、様々な見方、捉え方を尊重する
-  ポジティブなアセスメントからスタートする
-  こども中心に考える

可視化による事例の振り返り



普段のチームでの振り返りを少し構造的にした手法です。

- ✓ 事前に資料作成等はずに事例を振り返る手法
- ✓ 相談したい職員から簡潔に事例概要を説明し、参加者からの質問によって状態像を把握していく
- ✓ 参加者の質問によって形作られていくため、参加者の質問力の向上も見込まれる
- ✓ 資料がないため、進行役がホワイトボード等に情報を視覚的に整理しながら進めることが大切
- ✓ グラウンドルールを守り、批判的発言にならないようにする

ストレングスに注目!

表面的事実だけでなく、感情にも注目!

2. 質問と情報収集

参加者が質問し、背景情報を集める。
「その直前、何をしていましたか？」
「その時どう感じましたか？」等

4. 解決策の立案

課題を特定し、今後の支援策をグループで話し合い、提供者へフィードバックする

1. 出来事の提示

事例提供者が「昨日、A君が送迎中にパニックになった」など、数分で概要だけを話す

3. 全体像の共有

質問から得た情報をホワイトボード等に可視化し、全員でケースを把握する



(参考)口頭だけではない事例の振り返りのホワイトボードのレイアウトイメージ

もっとシンプルでもよいので、参加者全員が同じ情報を見ながら振り返りができるようにして見ましょう！



ボードは2枚以上になってもOK
2~3枚用意しておきましょう

■事例提供理由：

①情報収集

ジェノグラムと基本情報、性格、能力、趣味特技、本人の思い・希望・・・

ジェノグラムを
中心に描き、
周辺に情報を
書き足していきます
本人のイラストがあると、
イメージの共有が
すすみます

本人の生活史（タイムライン）と特徴的なエピソード

過去 現在 未来

得られた情報から、本人の気持ちの浮き沈みをタイムラインで表現します

→ 振り返り①

■事例提供理由に変更があれば記入：

→ ②-1 ストレングスの共有（ふせんを貼付）

②-2 課題の焦点化

事例提供者から見た課題：○○○○○○○○○○

参加者から見た事例の課題：○○○○○○○

③手立ての検討（大小問わず、アイデアベースでどんどん出そう！）

「支援目標の設定」まで
取り組む場合は、
出てきたアイデアに
マークをつけるなどして
取組の方針を
整理していきましょう

順番通りに書く必要はありません。
参加者や事例提供者の発言を聞きながら、
適した場所に書き込んでいきましょう。
また、レイアウトはアレンジ可能です。
ぜひ工夫しながら良いレイアウトを見つけてください！

事例検討手法例

- ✓ 事前に情報を整理して、資料配布もしてから行う手法
- ✓ 事例提供者は、事前準備の段階で情報や自身の気持ちを整理する時間が取れる
- ✓ 上司や先輩などは、事前準備の段階からサポートがしやすい
- ✓ 事前に資料配布しているため、背景情報等は共有された状態で検討がスタートできる

こどもの気持ちも考えながら整理しよう

2. 事前助言

上司や先輩、同僚とも相談しながら事前資料として情報を整理する。
※少人数のグループワークとして行っても良い

4. 解決策の立案

課題を特定し、今後の支援策をグループで話し合い、提供者へフィードバックする

1. 情報の書き出し・整理

こどもの今とこれまでを整理しながら、自身の行動や感情も整理しておく

前向きに！

3. 全体での事例検討

進行役の下、事前に共有されているテーマに沿って検討を進める



5-3 地域での学び合いの例

こどもは地域で暮らし、育っています。
こどもの生活には保育所や学校、行政、他事業所等、多くの関係者が関わっています。
事業所内だけでなく、地域に目を向け、地域の中での仲間づくりや学び合いを進めることが重要です。

この研修をツールとして活用しながらできるアクション

- ✓ 他事業所との合同研修
- ✓ 他施設の見学(他事業所の支援のノウハウ等を知る)
- ✓ 支援者同士の意見交換
- ✓ 児童発達支援センターによる研修会への参加

つながりが生む「安心感」

「あの事業所ではこうしてるんだ!」「困ったら相談してみよう」と視野が広がります。支援者一人で、あるいは一つの事業所だけで抱え込むことを防ぎ、支援の安心感をぐっと高めます。

まずは「顔の見える関係づくり」からスタートしましょう。

本人支援を通じた“環境づくり”が、共生社会を実現するための土台となっていきます

小規模事業所における地域での新人研修の例

1. 背景と課題

小規模事業所
(職員8名)



どうやって
研修する？
少人数の悩み



数年ぶりの新人
職員を1名採用

2. 合同新人研修の実施



お互いを知る



参加：地元と隣町の事業所など新人4名

3. もたらされた成果と価値

【新人職員】



地域のお互いの組織との
横のつながり
(外部との接触)

【組織】

他を知ることで、
自事業所の特徴に気づく

自分の
組織・事業所



事業への理解深化、モチベーション向上

研修を通じた学び合いをきっかけに、地域の連携力も生まれます！
また、他事業所を知ることで、自事業所への理解も深まりますね！



手引きにはコラムとして実際の事例も掲載していますので、読んでみましょう！

地域での学び合いの例

他施設の見学

他事業所の支援の
ノウハウ等を知る



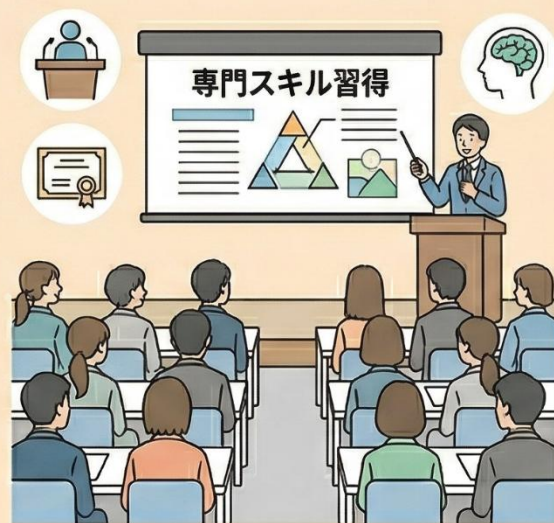
支援者同士の意見交換

経験を共有し、
ヒントを得る



児童発達支援センターによる研修会

専門知識やスキルを習得する



まずは共通の利用児童がいる事業所への見学など、始めやすいところから始めてみましょう！
徐々に輪が広がっていくことで、自分たちの支援の幅も広がっていくことでしょう！





障害児支援基礎・実践研修
研修ガイドブック（仮）

～こどもとその家族とともに歩む、あなたの成長のために～